

## 報告事項 ミラノ・コルティナ 2026 パラリンピック冬季競技大会

- 1 大会名称 ミラノ・コルティナ 2026 パラリンピック冬季競技大会  
「MILANO CORTINA 2026 Paralympic Winter Games」
- 2 大会期間 2026年3月6日(金)～3月15日(日)(10日間)
- 3 開催地 イタリア共和国 ミラノ、コルティナ、ヴァル・ディ・フィエンメ
- 4 運営主体 国際パラリンピック委員会(IPC)  
ミラノ・コルティナ 2026 オリンピック・パラリンピック組織委員会
- 5 参加国・地域 過去最多 55か国・地域(前回46か国・地域)
- 6 開催規模 6競技79種目(前回78種目)。参加選手数過去最多 611人(前回588人)  
(611名の内訳:男子74%、女子26%) ※IPC公式サイト(3/15時点)より
- 7 実施競技・会場 (全6競技)

NO	競技名	選手村	競技会場名
1	アルパンスキー	コルティナ地区	Tofane Alpine Skiing Centre
2	スノーボード		Cortina Para Snowboard Park
3	車いすカーリング		Cortina Curling Olympic Stadium
4	バイアスロン	ヴァル・ディ・フィ エンメ地区	Tesero Cross-Country Skiing Stadium
5	クロスカントリースキー		
6	アイスホッケー	ミラノ地区	Milano Santagiulia Ice Hockey Arena

- 8 メダルイベント数 6競技・79種目(男子39種目 女子35種目 混合5種目)
- (1)アルパンスキー:30種目(男子15種目、女子15種目)
- (2)スノーボード:8種目(男子6種目、女子2種目)
- (3)車いすカーリング:2種目(男女混合)
- (4)バイアスロン:18種目(男子9種目、女子9種目)
- (5)クロスカントリースキー:20種目(男子9種目、女子9種目、混合2種目)
- (6)アイスホッケー:1種目(男女混合)

### 9 日本代表選手団

- (1)101名(選手44名、競技パートナー2名、競技スタッフ35名、本部20名)

選手団長:大日方 邦子(日本パラスポーツ協会理事)

副団長:荒井 秀樹(日本パラリンピック委員会運営委員会委員)

:與品 美由紀(日本パラリンピック委員会国際部長)

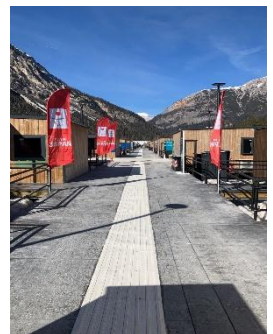
旗手:小川 亜希(車いすカーリング)

:小須田 潤太(パラスノーボード)

- (2)実施6競技中6競技に出場

全競技に出場することは6競技制になって(2018平昌)以降初。

- 10 成績 メダル:計4個(銀メダル3個 銅メダル1個)  
入賞:計24種目(アルペン:9種目、スノーボード5種目、  
クロカン8種目、カーリング1種目、ホッケー1種目)



コルティナ選手村

## 11 特記事項

- (1) **パラリンピック冬季競技大会 50 周年**という節目の大会。カーリング会場は 1956 年に開催されたオリンピック(コルティナ-ダンパッツォ大会)と同じ会場を使用。
- (2) 2 都市をまたぐ「**広域分散開催**」として実施され、選手村も 3 エリアに設置。
- (3) 選手・関係者間の繋がりを深めるため、「**挑め、心をひとつに。**」というスローガンを策定した。
- (4) 選手最年少・河原優星選手(16 歳/パラアイスホッケー)、最年長・中島洋治選手(61 歳/カーリング)
- (5) アルペンスキー **村岡桃佳選手**が **パラリンピック冬季競技大会**で日本人最多のメダル(通算 11 個)獲得。(大日方団長の持つ記録・10 個を更新)
- (6) スノーボードの **小栗大地選手**がバンクドスラロームで獲得した銀メダルは、パラリンピック冬季競技大会での日本代表選手団として**獲得通算100個目**のメダルとなった。
- (7) 日本代表選手団に初めて WO(ウェルフェアオフィサー)を配置、代表決定時から大会期間中まで選手の心理サポートを実施した。
- (8) コルティナ選手村近くの日本語学校を JPC 村外拠点とし、記者会見場の設置や JSC、味の素の協力を頂き選手サポートを実施した。
- (9) 9 月の IPC 総会でロシア・ベラルーシ両国の加盟権が完全復活し、国旗・国歌を使用しての参加が承認された。今大会には両国から計 10 名(ロシア 6 名、ベラルーシ 4 名)が出場したが、この決定に反対するウクライナなど 7 か国は、開会式の入場行進への参加を見送った。
- (10) 団長賞: パラスノーボードチーム  
大会スローガン「**挑め、心をひとつに。**」を様々な形で体现。



## 12 誹謗中傷から選手を守る事業<SNS モニタリング>

### (1) 結果

- ・ AI ツール検知+確認した記事及びコメント数: **1,847 件**(オリ時: 355,975 件)
- ・ 誹謗中傷と特定された件数: **0 件**、削除要請数: **0 件**(オリ時: 削除要請数 1,913 件→削除数 579 件)

### (2) モニタリング概要

- ・ 大会期間中を通して、SNS 上では**祝福や応援のコメント**を中心に**ポジティブな言及が多くを占めて**おり、個人及びチームに対する明確な誹謗中傷や批判的な言及は確認されなかった。
- ・ パラリンピックやパラ競技全般に対する批判的な意見や、差別的ニュアンスを含む可能性のある投稿が複数確認されたが、削除要請をするまでに至らないと判断。
- ・ **テレビ中継や報道の拡大を望む意見も、大会期間を通して常時一定数検知**された。
- ・ ネガティブな投稿が非常に少なかったことがパラリンピック期間を通じた特徴。  
(オリンピックに比べ、また WBC が同時期に開催されたため報道量の少なさにも起因か)

## 13 今後に向けて

- ・ 課題 → メダル獲得に向けた強化と次世代選手の育成強化の体制作り  
トレーニング拠点の拡充

